

Lymph node metastasis and predictive factors in clinical stage IA squamous cell carcinoma of the lung based on radiological findings

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 多根, 健太 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002849

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2562 号

Lymph node metastasis and predictive factors in clinical stage IA squamous cell carcinoma of the lung based on radiological findings

画像所見に基づく臨床病期 stageIA 肺扁平上皮癌におけるリンパ節転移と予測因子

多根 健太 (たね けんた)

博士 (医学)

論文内容の要旨

肺癌の標準治療は肺葉切除であるが、臨床病期 stageIA に対しては区域切除が行われることがある。その際にリンパ節転移の有無が術式決定因子の一つになるが、腺癌と比較し扁平上皮癌のリンパ節予測因子は明らかにされていない。今回は臨床病期 stageIA 期扁平上皮癌を対象としてリンパ節転移の割合と、転移予測因子を明らかにした。対象は 2003 年 1 月から 2019 年 12 月の間で国立がん研究センター東病院で肺葉切除を行った臨床病期 stageIA の扁平上皮癌 192 例で、CT 所見に基づき腫瘍が肺門部から肺野外套 1/3 に位置する腫瘍を outer、2/3 内に位置する腫瘍を inner と定義し比較した。staging は TNM 分類第 8 版に換算し、臨床因子 (性別、年齢、喫煙歴、CEA、CYFRA、SUVmax、腫瘍の位置、術側、腫瘍径、cT,) と病理学的因子 (pT, pN, 脈管侵襲、胸膜浸潤) を評価し、リンパ節転移に関して、単変量、多変量解析を行った。その結果、outer 群と inner 群で臨床因子は両群間で差が無かったが、病理学的因子では胸膜浸潤が outer 群で有意に多かった。リンパ節転移は 6%あり、outer 群で 6%、inner 群で 7%と両群間に統計学的有意差は認めなかった ($p=0.669$)。Outer 群の 7 例 (6%) が N1 リンパ節転移で、N2 転移は認めなかった。Inner 群は 4 例 (6%) が N1 リンパ節転移で、1 例 (1%) が N2 リンパ節転移であった。単変量解析、多変量解析を行い、腫瘍径 (>2cm) のみが有意なリンパ節転移予測因子となった。過去に報告された臨床病期 stageIA の扁平上皮癌のリンパ節転移に関する検討は、扁平上皮癌が含まれている割合は非常に少なく扁平上皮癌のみの検討でも多いもので 100 例であった。本研究はまとまった症例数であること、扁平上皮癌のリンパ節転移予測因子を明らかにしたことが特徴として上げられる。また本研究は区域切除を見越した画像所見に基づく分類とリンパ節転移の関係を明らかにしたことに新規性はある。しかし本研究は単施設な後方視的研究であること、リンパ節転移のみを評価しており生存割合の評価を行えていないことが limitation と考えられる。今後は扁平上皮癌のみを対象とした葉切除と区域切除の臨床試験が必要かもしれない。